

# 資料編



## 第②次あわら市総合振興計画

# 基本構想

(平成28年度策定)

2016 ▶ 2025

### 第1章 目指すまちの姿

#### 第1節 あわら市の基本理念

平成16年3月に誕生したあわら市。合併から10年余りが経過し、3万人の市民のふるさとにふさわしい基礎的自治体としての基盤は強固なものになりました。そして、次の10年を展望すると、そこに見えるのは北陸新幹線の県内延伸であり、人口減少社会の到来です。

こうした社会情勢の変化に的確に対応するとともに、現在このまちで暮らす市民も、これから市民になろうとする人も、みんなが暮らしやすく幸せを実感できるまちを目指します。

日本一幸福な福井県で一番幸せなまちへ。平成28年度から37年度までを計画期間とするこの基本構想において、本市のまちづくりの基本理念を次のとおり定めます。

## 暮らしやすくして 幸せを実感できるまち

#### 第2節 幸せを実現するための6つのプラン

基本理念に掲げるまちを実現するため、今後10年間で重点的に実施していく施策を次の6つのプランにまとめました。この6つのプランを総合的かつ複合的に推進することにより、市民の幸せを実現していきます。

Plan-A 新幹線を迎える

Plan-B まちを輝かせる

Plan-C 人をはぐくむ

Plan-D 安らぎを守る

Plan-E 力をみなぎらせる

Plan-F 夢をつなぐ



## Plan-A 新幹線を迎える

福井県と首都圏、北関東、信越を1本の線路で結ぶ北陸新幹線が、当初の予定を3年早め平成34年度に開業します。平成27年3月に先行開業した長野ー金沢間では、新幹線を利用して富山県や石川県に多くの来訪者が訪れ、その高い経済効果が認められています。

この北陸新幹線の県内延伸と同時に、新幹線芦原温泉駅が開業します。かつては都と遠国を結ぶ北国街道が通った本市は、現在JR北陸本線や北陸自動車道、国道8号などの動脈が南北に縦断する交通の要衝となっています。北陸新幹線が開業すれば人の大量輸送も可能となることから、物流で発展してきたこの地域のさらなる発展が期待されます。

こうした時代の変化を好機ととらえ、市の活性化につなげていきます。

### ◎福井県の北の玄関口の整備

北陸新幹線で福井県を訪れる人たちを最初に迎える駅が芦原温泉駅です。福井県の北の玄関口にふさわしい新幹線駅舎となるよう働きかけるとともに、周辺においても民間資本の投入を促進するような環境の整備に努めます。

また、駅西口および東口については、あわら市のエントランスゾーンにふさわしく、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして整備します。

### ◎魅力的な観光地づくりと観光の振興

あわら温泉は福井県随一の温泉観光地であるとともに、北陸観光の宿泊拠点にもなっています。これまで多かった関西、中京方面からの観光客に加え、新幹線や舞鶴若狭自動車道などでアクセスの向上する関東、甲信越、中国地方など全国から訪れる観光客にとって魅力的な観光地づくりを目指します。

### ◎市民の足の確保

北陸新幹線の県内開業によりJRから経営分離される並行在来線については、福井県や県内市町などで構成する第三セクターの運営を通して市民の足を確保するとともに、その利便性の向上に努めます。

## Plan-B まちを輝かせる

山紫水明、白砂青松の豊かな自然に恵まれたあわら市。それは有史以前からこの地に息づく大地の姿であり、さらには人の営みとともに育まれてきた景観でもあります。私たちは、多くの先人が愛し、守り続けてきた美しいふるさとをこの先も永遠に伝えていく必要があります。

そして、豊かな自然や優れた景観とともに欠かすことのできないものが、快適な生活環境です。市民に暮らしやすくてうおいのある生活を提供し保障していくため、道路や上下水道などの社会基盤の充実に努めながら、まちを一層輝かせます。

### ◎景観に配慮したまちなみづくり

一定の規則性と秩序が保たれたまちなみは、美しい景観となって人々の心をとらえます。芦原温泉駅周辺や芦原温泉街などの市街地はもとより集落地域においても、整然が生み出す美や、歴史・文化的要素を切り口とした景観づくりと誘導を、市民と共働で進めます。

### ◎自然豊かなふるさとづくり

海、山、川、湖などあわら市の豊かな自然は、市民みんなの大切な財産です。かけがえのない自然を守り、次の世代に伝えていくため、市民や事業者、行政などが参加した仕組みづくりを進めるとともに、自然と共生したライフスタイルを提案していきます。

### ◎快適な生活環境の整備

上下水道や道路、橋りょうなどは、都市機能を維持し市民が日常生活を送る上で欠くことのできない社会基盤です。ライフラインとも呼ばれ、災害発生時には最優先でその機能の確保が求められるこうした施設について、平常時から適正な維持管理と機能向上に努め、より快適で安心、安全な住環境を提供します。



## Plan-C 人をはぐくむ

3万人の市民が暮らすあわらし市。自慢できるものの一つに地域コミュニティのまとまりのよさがあります。地域に根差した人と人とのつながりによって形成されたコミュニティは、祭りや伝統行事、地区活動などを通して一層強固なものとなっています。

こうした力をまちづくりの原動力に変え、まちの活力としていくための仕組みづくりが重要です。

まちづくりの主役は市民です。一人一人がこのまちのメンバーであり、元気の源になります。さまざまな場面で、さまざまなステージで輝くことのできる人を育てます。

### ◎優れた教育環境の整備

子どもたちは、本市の将来を担う大切な宝です。すべての子どもたちが、学校はもちろん、地域においても安心かつ安全に学び、育つことができるよう、優れた教育環境の整備に努めます。

### ◎地域で活躍する人材の育成

強力なリーダーシップは、地域活動を活発にし、まちを活性化します。地域はもとより農業、商業、観光など、さまざまな分野でリーダーシップを発揮し活躍できる人材の発掘と育成に努めます。

### ◎コミュニティ活動への支援

市内では、行政区などの地域に根差した自治組織によるコミュニティ活動が盛んに行われています。また、こうした自治組織以外にも、同じ目的を持って活動するまちづくり団体など、さまざまなコミュニティ組織が活動しています。こうした活動に対する支援を強化し、市民が自ら考え実践するまちづくりを推進します。

## Plan-D 安らぎを守る

子どもも高齢者も、体の不自由な人もそうでない人も、男性も女性も、安心して豊かに生活することはみんなの願いです。そのためには、さまざまな分野で市民の暮らしをサポートしていく必要があります。

刻々と変化する社会情勢に合わせて、市民のニーズも変化し多様化しています。こうしたニーズを的確に把握し、すべての市民が満足できるサービスの提供に努めます。

また、不意の災害をはじめ市民の生命や財産を脅かす事態に対応するための仕組みづくりを進め、市民のゆとりと安らぎを守ります。

### ◎安心で安全なまちづくり

犯罪のないまち、災害に強いまち、そして安心して暮らせるまちは、誰もが願うまちの姿です。いまある平穏を維持し続けるため、関係機関との連携を強化するとともに、正確な情報の活用と提供などに努め、市民の安心と安全を守ります。

### ◎子育て支援の充実と少子化対策

全国的にも高いレベルにある本市の子育て支援サービスは、多くの子育て世帯から支持を得ています。引き続き、子育てのしやすいまちとして、施策の拡充に努めます。また、子育てに関する情報を広く内外に発信し、移住や定住を促進するツールとしても活用します。

### ◎高齢者に優しいまちづくり

すべての人が、年齢を重ねても、いつまでも輝きながら健康で暮らし続けたいと願っています。住み慣れた地域で元気で暮らすことができるよう、健康づくりのサポートや地域包括ケアシステムの充実を図り、高齢者に優しいまちづくりを進めます。



## Plan-E 力をみなぎらせる

強い産業は、まちに力を与えてくれます。

この地に伝わるものづくりの気質は、工業団地を中心とした企業群に引き継がれ、あわら市の活力の源となっています。市民の雇用を守り、まちに活力をもたらすこうした企業が、さらに活動しやすくなるよう環境の整備に努めます。

また、基幹産業の一つである農業は、TPP（環太平洋パートナーシップ）発効を前に、今まで以上に強い産業に育てていくとともに、環境にも着目した多面的産業としてのあり方を検討します。

市街地の活性化に商業の振興を欠かすことはできません。北陸新幹線の開業を見据えながら、まちのにぎわいづくりに努めます。

そして、経済活動の基本である産業全般の振興を図り、まちに力をみなぎらせます。

### ◎企業誘致と立地企業への支援

交通の要衝という地の利を生かした利便性や手厚い支援策などを前面に出しながら企業の誘致に取り組むとともに、すでに市内で活動している優良企業に対してもきめ細やかなサポートを実施します。

### ◎商業の振興と市街地の活性化

活発な商業活動は、まちに活気とにぎわいをもたらします。芦原温泉駅周辺と芦原温泉街の2つの市街地における商業活動や事業活動を支援し、中心市街地の活性化を図ります。

### ◎強い農業、林業、漁業の実現

農林水産業などの第一次産業は、人が生きていく上で基本となる産業です。経営基盤の強化や就業環境の改善などを通して、経営の安定と後継者の育成を図り、強い産業の実現を目指します。

## Plan-F 夢をつなぐ

ふるさとは、誰にとってもかけがえのない心のよりどころです。あわら市で生まれ育った人も、あわら市を新しいふるさとに定めた人も、みんなが暮らしやすいまちづくりを進めます。

人口減少や少子化という社会的な問題は、容易に解決できるものではありません。ただ、これらの問題が顕在化する以前から、「若い世代が住み、生み、育てたくなるまち」を重要政策に掲げ推進してきたあわら市にとって、これまで培ってきたノウハウは、次の段階へステップアップするための大きな糧となるはずです。

「出会い」や「結び」、「暮らし」のための環境を整備するとともに、こうした活動を積極的に支援しながら、次の世代へと夢をつなぎます。

### ◎移住・定住の促進

豊かな自然環境や、教育と子育て環境の充実、便利な生活環境など、本市の暮らしやすさは、みんなが認めています。こうした情報を全国に発信し、「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらえるファンの発掘を進めるとともに、本市への移住・定住の促進に努めます。

### ◎結婚しやすい環境の整備

近年の晩婚化や結婚しない男女の増加は、社会的な問題となっています。こうした問題を市の重要な課題として位置付け、行政としてその解消に積極的に関わっていく仕組みづくりに努めます。

### ◎雇用の創出と働きやすい環境の整備

暮らしを支える大切なものの一つに、働く場所の確保があります。市民一人一人がそれぞれの希望に沿った職場で生きがいを感じながら働くことのできる環境の整備に努めます。また、子育てを終えた女性や元気な高齢者などの起業を積極的に支援します。





### 第3節 まちづくりの目標（施策の柱）

基本構想の実現を目指して、6つの施策の柱を掲げ、総合的かつ体系的な施策の推進を図ります。

<p><b>action 1（環境）</b> ～美しい自然が守られ 安全で安心して暮らせるまち～</p>	<p>自然と共生していくために、自然環境の保全に努めるとともに、限りある資源とエネルギーの有効利用を図り、環境にやさしい循環型社会の構築を目指します。 また、災害に強く、犯罪や交通事故のない誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。</p>
<p><b>action 2（健康）</b> ～健やかな身体を鍛え 生涯を通して元気に暮らせるまち～</p>	<p>赤ちゃんから高齢者まで、健常な人もそうでない人も、誰もが生涯にわたって健やかに人生を過ごせるために、健康、福祉、社会保障の各分野において連携のとれた施策を展開することで、いきいきと暮らすことができるまちづくりを推進します。</p>
<p><b>action 3（教育）</b> ～学びの心を育て 豊かな文化があふれるまち～</p>	<p>学校・家庭・地域が一体となって、心豊かでたくましい子どもたちを育てるとともに、生涯にわたって多世代が学びの心を育て、豊かな文化があふれるまちづくりを目指します。</p>
<p><b>action 4（都市）</b> ～生活基盤が整い 便利で快適な住みよいまち～</p>	<p>便利で快適な生活を送るために、上下水道や道路網、公共交通体系などを整備し、快適な住環境を備えた住みやすいまちづくりを推進します。</p>
<p><b>action 5（経済産業）</b> ～働く喜びを伝え にぎわいと活力に満ちたまち～</p>	<p>福井県でもトップレベルの製造業を中心とした産業をさらに発展させるとともに、福井県随一の温泉観光地「あわら温泉」を中心ににぎわいと活力あるまちづくりを推進します。</p>
<p><b>action 6（地域社会）</b> ～みんなが主役で ともに楽しく暮らすまち～</p>	<p>地域の主体性が求められる地方分権社会を迎え、自立した自治運営を可能とする強固で信頼される行財政基盤の確立を目指します。 そして、市民と行政が互いに自治意識を持ち、共動による市民主体のまちづくりを推進します。</p>

諮 問

あ政第1126号  
令和2年12月18日

あわら市総合振興計画審議会  
会長 吉田 純一様

あわら市長 佐々木 康男

第2次あわら市総合振興計画後期基本計画の策定について（諮問）

本市の今後5年間のまちづくりの指針となるべき第2次あわら市総合振興計画後期基本計画を策定したいので、その案について貴審議会の意見を求めます。



## 答 申

令和3年2月17日

あわら市長 佐々木 康男 様

あわら市総合振興計画審議会  
会長 吉田 純一

## 第2次あわら市総合振興計画後期基本計画について(答申)

令和2年12月18日付けあ政第1126号で諮問のあった標記のことについて、慎重に審議した結果、下記のとおり当審議会の意見を付して答申します。

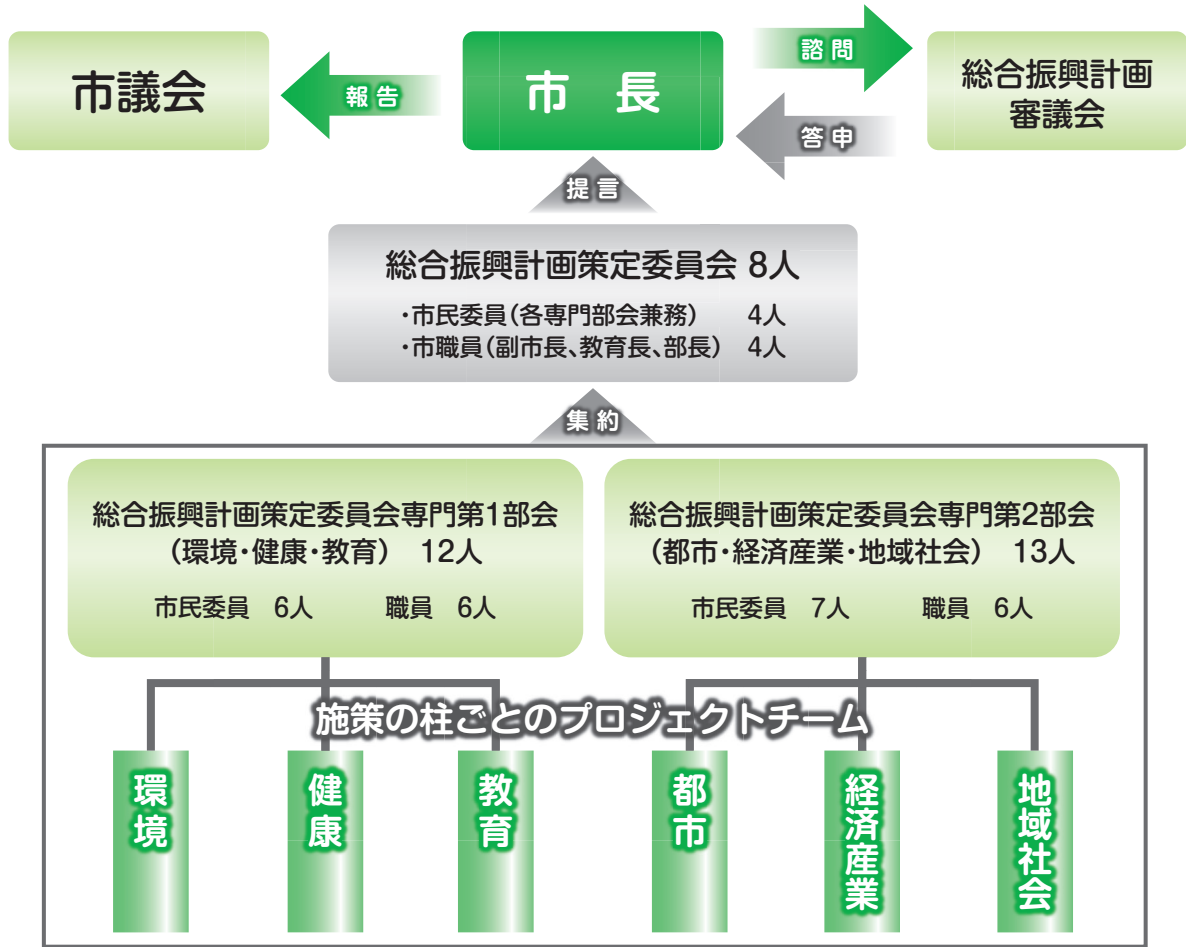
市当局においては、計画の基本理念である「暮らしやすく 幸せを実感できるまち」と、後期基本計画のテーマ「誰もが 夢や希望を持ち 元気に笑顔で暮らす 活力あふれるまちへ」の実現に向けて、最大限の努力をもって、本計画に定める各施策に取り組まれるよう要望します。

## 記

- 1 総合振興計画は、あわら市の最上位計画であり、各分野の個別計画を策定し、推進する上で、重要な指針となるものである。市当局においては、こうしたことを十分認識し、本計画の普遍性の確保に努められたい。
- 2 本総合振興計画の基本理念である「暮らしやすく 幸せを実感できるまち」を実現するためには、本計画の理念、方針等を市の全ての部局が正しく理解することはもとより、市民とまちの将来像を共有し、共感を得ながら事業を遂行していくことが重要である。このため、各部局間の横断的かつ有機的連携を図るとともに、市民や各種団体、企業など多様な主体と共動しながら、本計画に掲げる各施策の推進を図られたい。
- 3 感染拡大が続いている新型コロナウイルスの影響により、私たちの日常は一変し、価値観や社会の在り方が大きく変化した。また、SDGsも広く浸透し、「誰一人取り残さない」社会の実現が求められている。このような大きな社会変動の中、常に問題意識をもち、従来の価値観にとらわれない新しい発想と行動力をもって、将来を見据えた変革に挑戦し続けられたい。
- 4 人口減少や少子高齢化の進行する中においても、多様性を受け入れる寛容性を持ち、お互いに支え合い、尊重し合える共生社会の構築を進められたい。
- 5 令和6年春の北陸新幹線芦原温泉駅開業効果を市内全域に波及させることはもとより、住む人の幸せを第一に考え、「誰もが 夢や希望を持ち 元気に笑顔で暮らす 活力あふれるまちへ」の実現に向け、活力あふれるまちづくりを進められたい。

## 策 定 体 制

施策の柱ごとの庁内プロジェクトチームを設置し、環境・健康・教育に関する専門第1部会、都市・経済産業・地域社会に関する専門第2部会において素案を作成します。これを、総合振興計画策定委員会で検討し、市長に提言します。市長は総合振興計画の“案”を総合振興計画審議会に諮問し、答申を受けて市議会へ報告します。



策定経過

日付	会議名	内容
令和2年7月1日	第1回あわらし総合振興計画審議会	前期基本計画の達成状況、あわらしを取り巻く環境、現状、課題について説明
令和2年6月～9月	課長をリーダーとする庁内プロジェクトチーム（各分野ごと）による協議	現状・課題、施策の方針などについて協議
令和2年9月29日	第1回あわらし総合振興計画策定委員会	前期基本計画の達成状況、あわらしを取り巻く環境、現状、課題、総合振興計画素案について説明
令和2年9月29日	第1回あわらし総合振興計画策定委員会専門第1部会及び第2部会合同会議	後期基本計画について協議
令和2年10月28日	第2回専門第2部会	
令和2年10月29日	第2回専門第1部会	
令和2年11月27日	第3回専門第1部会	
令和2年11月30日	第3回専門第2部会	
令和2年12月16日	第2回策定委員会	後期基本計画の調整
令和2年12月17日	総合振興計画（案）の提言	
令和2年12月18日	総合振興計画（案）の諮問	
令和2年12月25日	パブリックコメント募集（～令和3年1月22日まで）	ホームページ、市民課窓口及び芦原分室
令和3年1月13日	第2回あわらし総合振興計画審議会	総合振興計画（案）の検討
令和3年1月22日	パブリックコメントに寄せられた意見に対する市の考え方の公表	意見16件（3名）
令和3年2月4日	第3回あわらし総合振興計画審議会	総合振興計画（案）および答申（案）の検討
令和3年2月17日	第2次あわらし総合振興計画後期基本計画について答申	

前期基本計画の実施状況と達成率  
第1章

あわらし市の現状  
第2章

持続可能な開発目標（SDGs）について  
第3章

後期基本計画策定の背景  
第4章

後期基本計画のテーマと基本目標  
第5章

後期基本計画の策定方針と施策の体系  
第6章

後期基本計画各論  
第7章

## あわらし総合振興計画審議会委員名簿

令和3年2月1日現在(敬称略)

職 名	氏 名	備 考
会長	吉田 純一	学識経験者
副会長	関 法子	あわらし社会福祉協議会会長
委員	笹岡 一彦	福井県議会議員
委員	玉川 洋一	あわらし教育委員会教育長職務代理者
委員	坪田 清孝	あわらし農業委員会会長
委員	長谷川 巧	あわらし区長会連絡協議会会長
委員	堀江 与史朗	あわらし都市計画審議会
委員	坂井 健志	坂井地区医師会会長
委員	久住 健一	坂井健康福祉センター長
委員	赤尾 政治	あわらし商工会会長
委員	前田 健二	あわらし観光協会会長
委員	伊藤 和幸	芦原温泉旅館協同組合理事長
委員	北島 友嗣	JA 福井県理事
委員	坂井 幹夫	坂井森林組合代表理事組合長
委員	久野 好夫	あわらし文化協議会副会長
委員	石黒 豊	あわらし民生委員児童委員協議会連合会会長
委員	堂庭 信男	あわらしスポーツ協会会長
委員	浅田 茂吉	あわらし老人クラブ連合会会長
委員	笹原 修之	あわらしPTA 連合会会長



## 第②次あわら市総合振興計画 後期基本計画

発行：令和3年3月  
福井県あわら市

編集：あわら市 創造戦略部 政策広報課  
〒919-0692 福井県あわら市市姫三丁目1番1号  
TEL：0776-73-1221 (代)





暮らしやすくて  
幸せを実感できるまち

